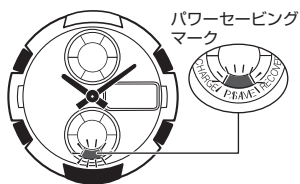


パワーセービング機能について

本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」をONに設定してあります。
 ※パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
 ※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
 午後10時～午前6時の間、暗いところで本機を約1時間放置します。
 ⇒液晶表示が消え、パワーセービングマークが点滅します。
 アラーム・時報の報音は行いません。
 アナログ針は運針を継続し、自動受信も行いません。
 ※タイマーモード、ストップウォッチモードのときは、スリープ状態になりません。
- 機能スリープ
 表示スリープのまま暗いところで6～7日間経過します。
 ⇒アラーム・時報の報音は行いません。
 アナログ針は運針を停止し、自動受信も行いません。
 ※時計機能は正常に作動しています。



●スリープ状態を解除するには

本機を明るいところに置か、いずれかのボタンを押すか、オートライト（「●文字板を発光させる」）のように傾けたりします。
 ※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大2秒かかる場合があります。

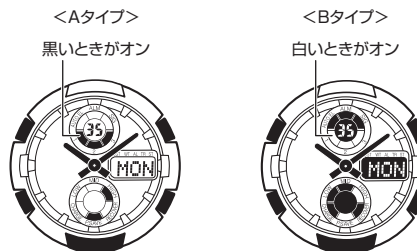
●パワーセービング機能のON / OFF

パワーセービング機能を働かせなくするには「■セットのしかた」からの操作をご覧ください。
 ※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大2秒かかる場合があります。

机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

液晶表示について

本書はAタイプの液晶表示で説明しております。
 Bタイプ（反転液晶）をお使いの方は、Aタイプで各インジケータ（マーク）がオンのときに黒く点灯するところが白くなる置き換えてご覧ください。



操作のしくみと表示の見方

◎ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順でモードが切り替わります。
 ※アラームモード、ハンドセットモードのまま2～3分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。

時刻モード

受信インジケータ (表示切替)
 (A) ボタン (B) ボタン
 (C) ボタン (モード切替)
 (D) ボタン
 (L) ボタン (ライト点灯)
 バッテリーインジケータ

★曜日の見方
 SUN:日 MON:月 TUE:火 WED:水
 THU:木 FRI:金 SAT:土

*バッテリーインジケータの見方については「●バッテリーインジケータの見方」、受信インジケータの見方については「●受信インジケータ」参照。

★表示切替について
 (B) ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります。

曜日

秒 35 MON

↓ (B)

日

秒 30 MON

午後マーク (午前は消灯)

秒 35 P10:00

↓ (B)

時・分

秒 35 6:30

月・日

ワールドタイムモード

NYC 都市コード
 モードマーク
 ワールドタイム

アラームモード

※アラームOFFの場合。

AL1 アラーム番号
 モードマーク
 アラーム時刻

ストップウォッチモード

モードマーク
 計測値

タイマーモード

※オートリピートタイマーの場合。

リピート回数
 モードマーク
 タイマー時間

ハンドセットモード

モード名

電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光に当たるようにしてお使いください。

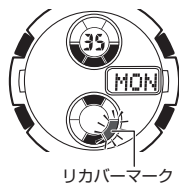
二次電池が消耗して時計機能が停止すると（レベル4）、メモリーされているデータや設定データは消去されます。

●リカバーマークが点滅している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ライトの点灯
- アラーム・時報などの報音
- 電波受信

この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。



●バッテリーインジケーターの見方

	Aタイプ	Bタイプ (反転液晶)	
レベル1			すべての機能が使用可能
レベル2			すべての機能が使用可能
レベル3			液晶表示不可、ライト点灯不可、アラーム・時報などの報音不可、電波受信不可、運針不可
レベル4			時計発振不可（時計機能停止）

※直射日光下などの強い光で充電した場合、バッテリーインジケーターが一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。

※レベル4になっても再度充電を行なうと使用できます。
※レベル4から充電したときは、レベル3になると表示が点灯しますので、時刻・カレンダーを合わせてください。ただし、レベル2またはレベル1になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。

●充電必要サイン

レベル3の状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。

●充電時のご注意

- 以下のような高温下での充電はお避けください。
 - 炎天下に駐車中の車のダッシュボードの上
 - 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
 - 直射日光が長く当たって、高温になる所
- なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

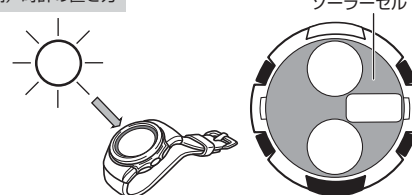


充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けてます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますのでご注意ください。

例) 時計の置き方



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作に加え、下記の条件で使用した場合に約7ヶ月動き続けます。

- 1日あたりの使用量
- ライト：約1.5秒間
 - アラーム報音：約10秒間
 - 電波受信：5回
 - 表示点灯：18時間

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理と針の運針動作のことです。

● 各レベルに回復するための充電時間

環境（照度）	充電時間			
	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
晴れた日の屋外など (50,000ルクス)	約1時間	約18時間	約5時間	
晴れた日の窓際など (10,000ルクス)	約4時間	約92時間	約25時間	
曇り日の窓際など (5,000ルクス)	約6時間	---	---	
蛍光灯下の室内など (500ルクス)	約67時間	---	---	

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

ライト点灯について

本機の表示部にはELパネル（エレクトロルミネッセンスパネル）が内蔵されており、暗いときに表示を明るくして見ることができます。また、時計を傾けると暗いときに文字板が発光するオートライト機能もあります。

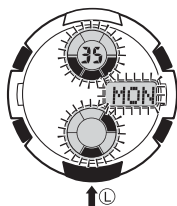
■ ボタンを押して発光させる

～手動発光～

どのモードのときでも、

① ボタンを押します

→ ① ボタンを押すと約1.5秒間文字板が発光します。



※オートライトOFFのときも① ボタンを押すと発光します。

本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

■ 時計を傾けて発光させる

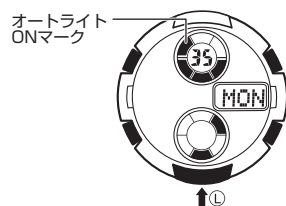
～オートライト機能～

オートライトは、ボタンを押さなくても暗いときに時計を傾けるだけで文字板が発光する便利なフルオートライト機能です。

※明るいときは、自動発光しません。

暗い場所で時刻などを見るときに大変便利です。オートライト機能では、どのモードのときでも、時計を傾けるだけで文字板が約1.5秒間発光します。

準備：どのモードのときでも、① ボタンを約2秒間押し続けて、オートライトON（オートライトONマーク点灯）にします。



※オートライトONのとき、① ボタンを約2秒間押し続けるとオートライトOFF（オートライトONマーク消灯）に戻ります。

●文字板を発光させる



※オートライト機能を使用するときは、時計を「手首の外側」にくるようにつけてください。

※文字板の左右（3時～9時方向）の角度を±15°以内においてください。15°以上傾いていると発光しにくくなります。



＜ご注意＞

- 直射日光下では発光が見えにくくなります。
- 発光中に① ボタン以外のいずれかのボタンを押したり、アラームなどが鳴り出すと発光を中断します。
- 発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これはELパネルが点灯する際の振動音であり、異常ではありません。

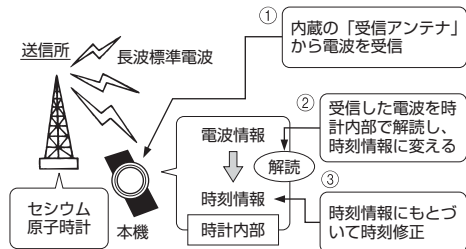
＜オートライトご使用時の注意＞

- オートライトを頻繁に使用すると電池の持続時間が短くなりますのでご注意ください。
- 時計が服の袖に隠れるようにつくと、明るいときでもオートライトが点灯することがあります。
- 時計を傾けたとき、文字板の発光が一瞬遅れることがあります。異常ではありません。
- 文字板発光後、時計を傾けたままにしていても、発光は約1.5秒間のみとなります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても発光することがあります。オートライトを使用しないときは必ずOFFにしておいてください。
- ※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトをOFFにしてご使用ください。
- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、発光しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも発光しにくいときは、腕を下から振りあげてみると発光しやすくなります。

電波時計について

電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

標準電波

- 日本の標準電波 (JJY) は独立行政法人通信総合研究所 (CRL) が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所 (40kHz)」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所 (60kHz)」から送信されています。
- アメリカの標準電波 (WWVB) は National Institute of Standards and Technology (NIST) が運用しており、コロラド州の Fort Collins から送信されています。

この標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることもあります。

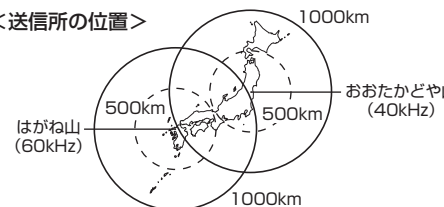
電波の受信範囲の目安

本機は、ホームタイム都市を下記のように設定すると日本の標準電波 (JJY) またはアメリカの標準電波 (WWVB) を受信することができます。(ホームタイム都市の設定により受信する電波は異なります)

* ホームタイム都市の設定については「■セットのしかた」参照。

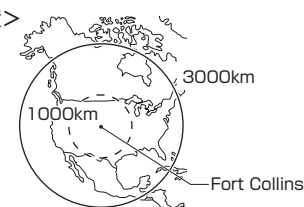
ホームタイム都市	受信電波
TYO	「おおたかどや山標準電波送信所 (40kHz)」または「はがね山標準電波送信所 (60kHz)」からの電波を受信します。
LAX, DEN, CHI, NYC	コロラド州の Fort Collins からの電波を受信します。

<送信所の位置>



- 条件の良いときは、送信所からおよそ1,000km離れた場所でも受信することができます。
- ※ただし、約500kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

<送信所の位置>



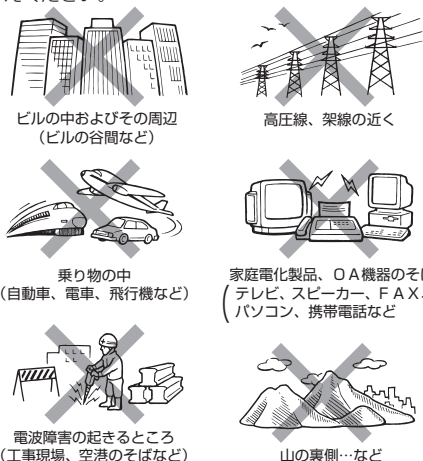
- 条件の良いときは、送信所からおよそ3,000km離れた場所でも受信することができます。
- ※ただし、約1,000kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

※受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯(昼・夜)などによって受信できないことがあります。
※電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

受信方法について

受信方法には、以下の2種類があります。

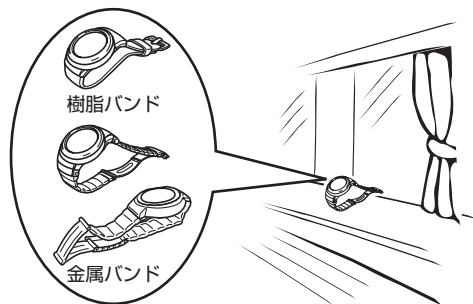
- 1] 自動受信 (午前12・1・2・3・4時に自動受信します)
- 2] 手動受信 (ボタンを押して手動受信します)

※自動受信が一度も成功しなかった場合にのみ午前5時に受信を行ないます。

※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。

●受信しやすくするために

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部 (12時位置のアンテナ) を外に向けて窓際に置いてください。



- 時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
- 受信中、時計を動かさないようにしてください。

●受信時間は?

受信時間はおよそ2~6分です。

※ただし、受信電波の設定で「AUTO (自動選局)」を選んでいるときは、周波数を選択するため、最大12分かかる場合があります。

* 受信電波の設定については「■受信電波の設定」参照。

●手動受信

時刻モードのとき

① ボタンを約1秒間押し続けます

→ 確認音が鳴り、受信を開始します。受信中は受信インジケータが変化します。

★受信を中止するときは

② ボタンを押します

※受信中は② ボタン以外の操作はできません。

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、確認音の報音とともに修正日時を表示します。

※受信インジケータが点灯します。

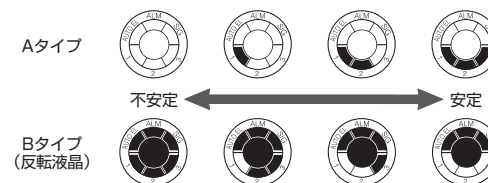
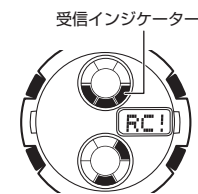
★受信が失敗すると

時刻修正は行なわれず、「ERR」を表示します。

※何も操作をしないと、1~2分後時刻モードに戻ります。

●受信インジケータ

受信中は受信状態によって受信インジケータが変化します。安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。



※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

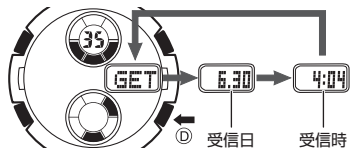
- 受信インジケータは、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
- 天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

● 受信日時の確認

時刻モードのとき

① ボタンを押します

- 受信により最後に修正した月日と時分を表示します。
- ※時刻モードに戻すには、もう一度① ボタンを押します。
- ※何も操作をしないと、1～2分後時刻モードに戻ります。



■ 受信電波の設定

自動受信のON/OFFを切り替えることができます。なお、ホームタイム都市をTYO(東京)に設定しているときは、受信する電波を選ぶことができます。

- * ホームタイム都市の設定については「■セットのしかた」参照。
- ※工場出荷時には、「ホームタイム都市=TYO(東京)、受信電波= AUTO(自動選局)」でセットされています。
- ※ホームタイム都市がTYO、NYC、CHI、DEN、LAXのとき、以下の操作を行なうことができます。

1. 受信日時を表示させる

時刻モードのとき

① ボタンを押します

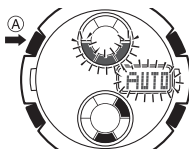
- 受信日時を表示します。
- ※何も操作をしないと、1～2分後時刻モードに戻ります。



2. セット状態にする

② ボタンを約1秒間押しします

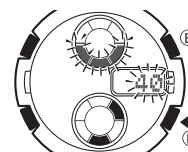
- 表示が点滅して、受信電波の設定になります。



3. セットする

③ または ④ ボタンを押します

- ③ または ④ ボタンを押して、受信電波をセットします。



4. セットを終わる

⑤ ボタンを押します

- 点滅が止まり、受信日時表示に戻ります。
- ※時刻モードに戻すには、① ボタンを押します。
- ※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。



★ ホームタイム都市がTYOの場合

- **AUTO**
自動受信はONになり、「おたかどや山標準電波送信所(40kHz)」と「はがね山標準電波送信所(60kHz)」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます(自動選局)。
※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。
- **40**
自動受信はONになり、「おたかどや山標準電波送信所(40kHz)」からの電波のみ受信します。
- **60**
自動受信はONになり、「はがね山標準電波送信所(60kHz)」からの電波のみ受信します。
- **OFF**
自動受信はOFFになります。

★ ホームタイム都市がNYC、CHI、DEN、LAXの場合

- **ON**
自動受信はONになり、コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。
- **OFF**
自動受信はOFFになります。

■ 受信に関するご注意

- 自動受信は時刻モードとワールドタイムモードでのみ行なわれます。
- タイマー計測中は電波受信を行いません。
- 電波を受信するとデジタル部が先に修正され、それに連動してアナログ針部が修正されます。アナログ針部が正しい時刻を示すためには電波受信前に必ずデジタル部とアナログ針部の時刻を合わせてください。
- 自動受信中にボタン操作を行なうと、確認音が鳴り、受信を中断します。
- 受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯(昼・夜)などによってうまく受信できないことがあります。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。
- 本機は日本およびアメリカで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
- 電波受信を行なわないときは、平均月差±15秒以内の精度範囲で動きます。
- 極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。
- 受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。
- 本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■ こんなときには

手動受信ができない

- 原因：・ 時刻モード以外のときは、手動受信はできません。
- ・ タイマー計測中は、手動受信はできません。
 - ・ ホームタイム都市がTYO、NYC、CHI、DEN、LAX以外のときは、手動受信はできません。

- 処置：・ 手動受信は時刻モードで行なってください。
- ・ ホームタイム都市がTYO、NYC、CHI、DEN、LAXのとき、手動受信を行なうことができます。「■セットのしかた」からの設定をご覧になり、ホームタイム都市を合わせてください。

「自動受信ON」に設定しているのに受信インジケータが消えている

- 原因：・ 受信インジケータは受信が成功し、時刻修正を行なったときに点灯します。
- ・ 一日に一度も受信に成功していない場合は、点灯しません(毎日午前3時に消えます)。
 - ・ 自動受信のとき、時刻モードまたはワールドタイムモード以外のモードになっていた。
 - ・ 手動で時刻修正をすると、受信インジケータは消えます。

- 処置：・ 電波の届く場所で使用しているかを確認して、受信を行なってください。
- ・ 「受信成功」しやすい環境で使用してください。
 - ・ 自動受信を行なうときは、時刻モードまたはワールドタイムモードにしておいてください。

電波受信をしても時刻が合わない

- 原因：・ サマータイムがONになっているか、ホームタイム都市設定を間違えていませんか。

- 処置：・ 1時間進んでいるとき(DSTマーク点灯)はサマータイムがONになっています。また、大きく違っているときはホームタイム都市を間違えています。「■セットのしかた」からの設定をご覧になり、正しく合わせてください。

受信電波の設定ができない

- 原因：・ ホームタイム都市がTYO、NYC、CHI、DEN、LAX以外のときは、受信電波の設定はできません。

- 処置：・ ホームタイム都市がTYO、NYC、CHI、DEN、LAXのとき、受信電波の設定を行なうことができます。「■セットのしかた」からの設定をご覧になり、ホームタイム都市を合わせてください。

- 電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。
- ※本機は工場出荷時および電池交換後には、以下の内容でセットされています。

受信電波	AUTO	日本の標準電波(40kHz/60kHz)を自動選局
ホームタイム都市	TYO	東京
サマータイム	AUTO	電波受信による自動切替

ワールドタイムの使い方

◎ ボタンを押して、ワールドタイムモードにします。

ワールドタイムモードでは、世界30都市(29タイムゾーン)の時刻を簡単に知ることができます。

※ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市の時刻を表示します。

※ワールドタイムの「秒」は基本時刻の「秒」に連動しています。

※ホームタイム(基本時刻)を24時間制にしているときは、ワールドタイムも24時間制で表示されます。

■ご注意

ワールドタイムが合っていないときは、時刻モードの時刻およびホームタイム都市設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。

* セットについては「■セットのしかた」参照。

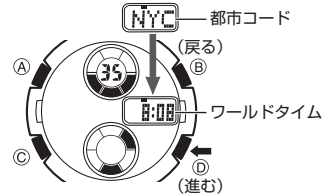
■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき

① または ② ボタンを押します

→ ① ボタンを押すごとに都市コードが進み、② ボタンを押すごとに戻ります。都市コードを表示後、その都市の時刻を表示します。

※ ①・② ボタンとも、押し続けると早送りします。



※ (A) ボタンを押すと、都市コードを約1秒間表示します。
※ 都市コードのないタイムゾーンでは、時差を表示します。

■サマータイム(DST)について

サマータイムとはDST(Daylight Saving Time)とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■サマータイムのON/OFF設定

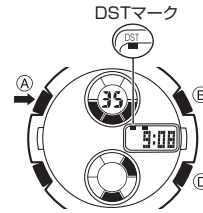
準備: ワールドタイムモードのとき、① または ② ボタンを押して、設定したい都市を選びます。

③ ボタンを約1秒間押します

→ (A) ボタンを約1秒間押すごとにサマータイムのON/OFFが切り替わります。

※ サマータイムがONのときは、DSTマークが点灯して、通常の時刻より1時間進みます。

※ 各都市ごとにサマータイムを設定することができます。ただし、「GMT」とホームタイムで設定している都市を表示しているときはサマータイムの設定はできません。



■都市コード一覧

コード	時差	都市名	コード	時差	都市名
---	-11		JRS	+2	エルサレム
HNL	-10	ホノルル	JED	+3	ジェッダ
ANC	-9	アンカレジ	THR	+3.5	テヘラン
LAX	-8	ロサンゼルス	DXB	+4	ドバイ
DEN	-7	デンバー	KBL	+4.5	カブール
CHI	-6	シカゴ	KHI	+5	カラチ
NYC	-5	ニューヨーク	DEL	+5.5	デリー
CCS	-4	カラカス	DAC	+6	ダッカ
RIO	-3	リオデジャネイロ	RGN	+6.5	ヤンゴン
---	-2		BKK	+7	バンコク
---	-1		HKG	+8	香港
GMT	+0	<グリニッジ標準時>	SEL	+9	ソウル
LON	+0	ロンドン	TYO	+9	東京
PAR	+1	パリ	ADL	+9.5	アデレード
BER	+1	ベルリン	SYD	+10	シドニー
ATH	+2	アテネ	NOU	+11	ヌーメア
CAI	+2	カイロ	WLG	+12	ウェリントン

※この表は2003年6月現在作成のものです。

※この表の時差は協定世界時(UTC)を基準としたものです。

アラーム・時報の使い方

◎ ボタンを押して、アラームモードにします。

時分を設定できるアラームが5本あり、設定した時刻になると10秒間電子音が鳴ります。また、毎正時(00分)に時報を鳴らすこともできます。

■アラーム時刻のセット

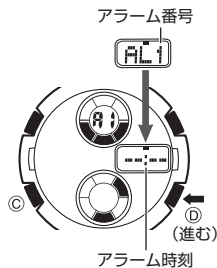
1. アラームを選ぶ

アラームモードのとき

① ボタンを押します

→ ① ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わりますので、設定したいアラームを選びます。

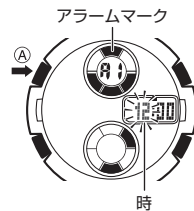
※ アラーム番号を表示後、アラーム時刻を表示します(アラームOFFのときは、---:---表示)。



2. セット状態にする

③ ボタンを約1秒間押します

→ 「時」が点滅します。
※ アラームマークが点灯して、自動的にアラームがONになります。



3. 「時」をセットする

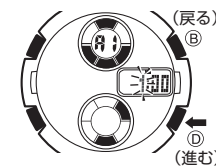
① または ② ボタンを押します

→ ① ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、② ボタンを押すごとに戻ります。

※ ①・② ボタンとも、押し続けると早送りします。

※ 「時」のセットのとき午前/午後(P)または24時間制にご注意ください。

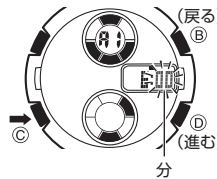
※ ホームタイム(基本時刻)を24時間制にしているときは、アラーム時刻も24時間制で表示されます。



4. 「分」をセットする

③ ボタンを押します

→ 「分」が点滅します。「時」も「時」と同様に① または ② ボタンでセットします。



5. セットを終わる

③ ボタンを押します

→ 点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2~3分間すると、自動的に点滅が止まります。

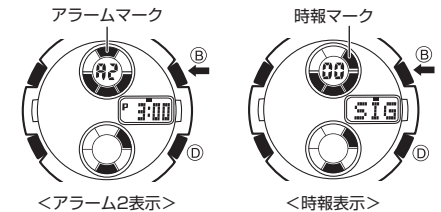
■アラーム・時報のON/OFF設定

準備: アラームモードのとき、① ボタンを押して、鳴らしたいアラーム(AL1~5)を選びます。また、時報を鳴らしたいときは時報表示(SIG)を選びます。

② ボタンを押します

→ アラームまたは時報のON/OFFが切り替わります。※それぞれのマークが点灯しているときがONとなり、アラーム・時報が鳴ります。

※ アラームをONにすると、アラーム時刻が表示されます。



■鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

■モニターアラーム

アラームモードのとき、② ボタンを押し続けると、押し続けている間、アラーム音が鳴ります。

タイマーの使い方

◎ ボタンを押して、タイマーモードにします。

タイマーは1分単位で60分までセットできます。セットした時間を経過(タイムアップ)すると10秒間の電子音が鳴ります。また、タイムアップ後も自動的に計測を繰り返すオートリピートタイマーとしても使えます。

タイマー方法について

本機のタイマーは以下の2種類があり、使い方に合わせてお好きな方を選ぶことができます。

● リピートタイマー (繰り返し計測)

タイムアップすると計測が止まり、約10秒後にタイマー時間表示に戻ります。

● オートリピートタイマー (自動繰り返し計測)

タイムアップしても、計測ストップするまで自動的に同じ時間を繰り返し計測します。
※繰り返し計測は合計10回行なうと、自動的に計測がストップします。

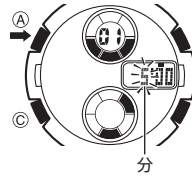
タイマーのセット

1. セット状態にする

タイマーモードのとき

Ⓐ ボタンを約1秒間押し
ます

⇒「分」が点滅します。

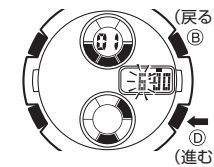


2. 「分」をセットする

Ⓓ または Ⓔ ボタンを
押し
ます

⇒ Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓔ ボタンを押すごとに戻ります。

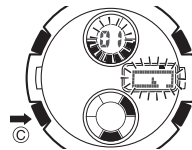
※ Ⓓ・Ⓔ ボタンとも、押し続けると早送りができます。



3. 「タイマー切替」にする

Ⓒ ボタンを押し
ます

⇒タイマーの切り替えになります。



4. タイマーを選ぶ

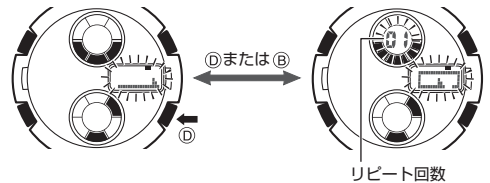
Ⓓ または Ⓔ ボタンを押し
ます

⇒リピートタイマーとオートリピートタイマーが切り替わります。

※リピートタイマーのときは「」が、オートリピートタイマーのときは「」とリピート回数が表示されます。

<リピートタイマー>

<オートリピートタイマー>



5. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押し
ます

⇒点滅が止まり、セット完了です。

※点滅表示のまま2~3分間すると、自動的に点滅が止まります。

タイマーの使い方(減算計測のしかた)

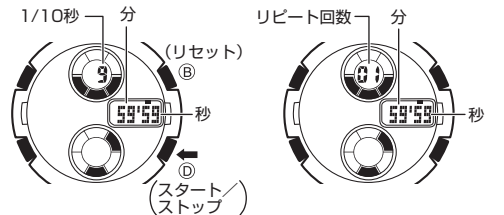
タイマーモードのとき

Ⓓ ボタンを押し
ます

⇒ Ⓓ ボタンを押すごとに、計測がスタート/ストップします。
※リピートタイマーでは1/10秒単位、オートリピートタイマーでは1秒単位で計測を行いません。

<リピートタイマー>

<オートリピートタイマー>



●計測ストップ後Ⓔ ボタンを押すと、計測前の表示に戻ります(リセット)。

●ロスタイムがあるときは、Ⓓ ボタンでストップ後、もう一度Ⓓ ボタンを押すと表示タイムに引き続き計測を始めます。

タイムアップになると

セットした時間を経過すると、10秒間電子音が鳴ります。
※いずれかのボタンを押すと音が止まります。

ストップウォッチの使い方

◎ ボタンを押して、ストップウォッチモードにします。

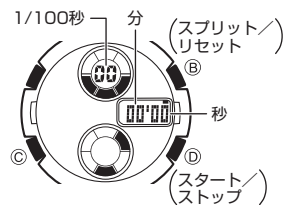
ストップウォッチは1/100秒単位で99分59秒99(100分計)まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。

計測のしかた

ストップウォッチモードのとき

Ⓓ ボタンを押し
ます

⇒ Ⓓ ボタンを押すごとに、計測がスタート/ストップします。



● 通常計測

Ⓓ → Ⓓ → Ⓔ
スタート ストップ リセット

積算計測...ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずに Ⓓ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

● スプリットタイム(途中経過時間)の計測

Ⓓ → Ⓔ → Ⓔ → Ⓓ → Ⓔ
スタート スプリット計測 スプリット解除 ストップ リセット

● 1・2着同時計測

Ⓓ → Ⓔ → Ⓓ → Ⓔ → Ⓔ
スタート 1着ゴール 2着ゴール 2着タイム表示 リセット
(1着タイム表示)

- 計測中にⒺ ボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリット計測となります(SPL表示)。
※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。
- 計測終了後Ⓓ ボタンを押すと、計測値が0に戻ります(リセット)。

ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方

ホームタイムデータのセットとは、お使いになる地域(都市)や時刻・カレンダー等を合わせることです。
※ホームタイムデータのセットや修正は時刻モードで行ないます。

デジタル部とアナログ部の時刻を同時に修正するとき
は、デジタル部の時刻を先に修正してください。

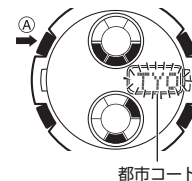
セットのしかた

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約1秒間押し
ます

⇒都市コードが点滅します。



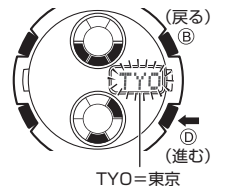
2. ホームタイム都市を選ぶ

Ⓓ または Ⓔ ボタンを
押し
ます

⇒ Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが進み、Ⓔ ボタンを押すごとに戻ります。本機をお使いになる地域(都市)を選びます。

*「都市コード一覧」参照。

※ Ⓓ・Ⓔ ボタンとも、押し続けると早送ります。



TYO=東京

3. 「サマータイム切替」にする

Ⓒ ボタンを押し
ます

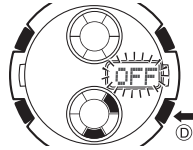
⇒サマータイムの切り替えになります。



4. 切り替える

① ボタンを押します

→ ① ボタンを押すごとにサマータイムの設定が切り替わります。



● AUTO

電波受信により、自動的にサマータイムのON/OFFが切り替わります。

※ホームタイム都市がTYOのときは日本のサマータイム情報に、NYC、CHI、DEN、LAXのときはアメリカのサマータイム情報に合わせます。

● OFF

サマータイムはOFFになります（通常時間）。

● ON

サマータイムはONになります（夏時間）。

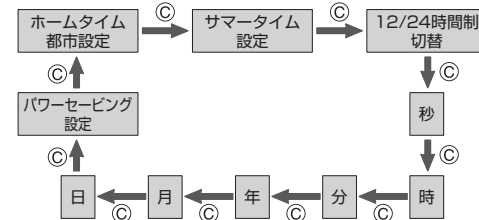
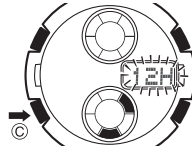
※セット完了後、DSTマークが点灯して、通常の時刻より1時間進みます。

※ホームタイム都市がHKG、TYO、SEL、NYC、CHI、DEN、LAX、ANC、HNL以外のときは、「OFF」⇄「ON」で表示が切り替わります。

5. 「時刻・カレンダー」合わせ

a. ③ ボタンを押します

→ ③ ボタンを押すごとに以下の順で点滅箇所が移動しますので、設定したい箇所を点滅させます。

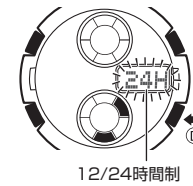


b. ④ または ⑤ ボタンを押します

→ ④ または ⑤ ボタンで点滅箇所をセットします。

★「12/24 時間制切替」のときは…

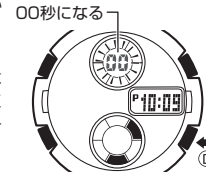
③ ボタンを押すごとに12時間制表示「12H」と24時間制表示「24H」が切り替わります。



★「秒」セットのときは…

③ ボタンを押すと「00秒」からスタートします。

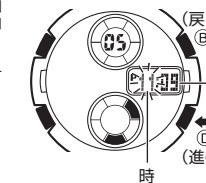
※秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります。（時報は「時報サービス117番」が便利です）



★「時」「分」「年」「月」「日」セットのときは…

③ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、⑤ ボタンを押すごとに戻ります。

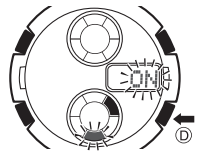
※④・⑤ ボタンとも、押し続けると早送りができます。



★「パワーセービング設定」のときは…

③ ボタンを押すごとにパワーセービング機能のON/OFFが切り替わります。

※パワーセービング機能をONにすると、セット完了後、パワーセービングマークが点灯します。



③ ボタンを押して点滅箇所を移動させ、④ または ⑤ ボタンを押してセットする操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。

※「時」のセットのときは午前/午後(P)、または24時間制にご注意ください。

※「年」は00(2000年)～99(2099年)の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日が算出されます。

※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

6. セットを終わる

⑥ ボタンを押します

→ 点滅が止まり、セット完了です。

※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

<シンクロ機能>

デジタル部の時刻を修正すると、アナログ部も連動して修正されます。

※針の修正は、デジタル部の修正に合わせて時計回り（正転方向）に送られます。

※針の修正は、デジタル部の修正時刻によって時間がかかることがあります。

■ アナログ部（針）の修正

アナログ部の時刻とデジタル部の時刻が合っていないときは、ハンドセットモードで合わせてください。

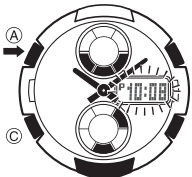
準備：③ ボタンを押して、ハンドセットモードにします。

1. セット状態にする

ハンドセットモードのとき

⑦ ボタンを約1秒間押します

→ 「時・分」が点滅します。

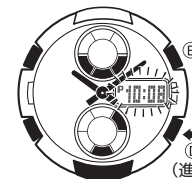


2. アナログ部を合わせる

⑧ ボタンを押します

→ ⑧ ボタンを押すごとに時計回りに1/3分（20秒）ずつ進みますので、デジタル部の「時・分」丁度にアナログ針を合わせます。

※押し続けると早送りします。



<針の自動早送り>

● ⑧ ボタンを押し続けて早送り中に⑨ ボタンを押すと、ボタンから手を離しても針が進み続けます。

● 自動早送りは時計針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

3. セットを終わる

⑨ ボタンを押します

→ 点滅が止まり、分針はそのときの「秒」に合わせて自動的に修正されます。

※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。